

コロナ禍における小学校体育（体づくり運動系）の 教師用動画コンテンツの作成と活用について

三田部 勇*

Creation and Use of Video Content of Physical Education Classes (Physical Exercise) for Elementary School Teachers at COVID-19 Crisis

MITABE Isamu*

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年以降の教育現場は、様々な制限と対応を迫られることとなった。図1に示す通り、「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について（通知）」（2020.2.28 文部科学省）に始まり、感染状況に対応し様々な基本方針が示される中で、教育活動における感染防止に伴うマニュアル等が示された。特に、体育授業においては熱中症予防との関連も図り、「学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について（通知）」（2020.5.21 スポーツ庁）が発出され、「学校の体育の授業におけるマ

スクの着用は必要無いが、体育の授業における感染リスクを避けるためには、地域の感染状況を踏まえ、児童生徒の間隔を十分に確保するなどの対策を講じること」「児童生徒の健康と安全を第一に考え、学習の内容や形態、授業の実施場所や時期等を総合的に考慮しながら、様々な感染リスクへの対策を講じることが必要」とされた。この通知の中では、配慮事項として、「児童生徒間の距離を2m以上確保する、同じ方向に動く場合は更に長い距離を確保する」といったことも示され、関わり合いを重視する体育授業においては、児童生徒同士が近接できない状況でどのように授業展開をしていけばよいのか、試行錯誤が続いた。

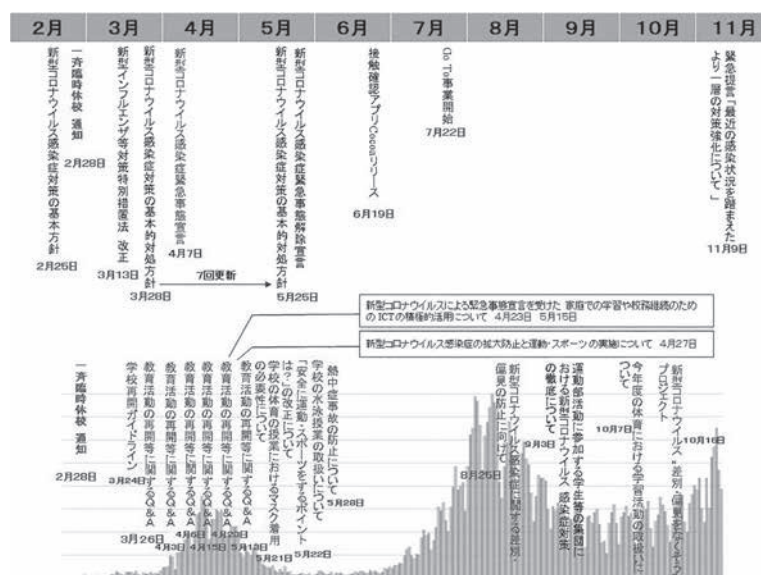


図1 新型コロナウイルス感染症の感染状況とその対応（2020年2月～11月）

* 筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

その後、第2波が下降気味になった10月に「今年度の体育における学習活動の取扱いについて」(2020.10.2 スポーツ庁)が発出され、小学校のボール運動系、中学校・高等学校の武道(柔道・剣道)について「特定の少人数で行う」「近接を伴う活動は、活動時間の一定の割合(1/3程度)とする」といった方針が示されることとなった。これにより、感染対策を講じた上での体育授業について具体が示されることとなったが、領域や運動種目については限定的であった。

こうした動きと並行しながら、スポーツ庁では、学校現場の混乱や教育活動の停滞を防ぐために、体育・保健体育における各校種、各領域に対応した教師用指導資料(動画コンテンツ)作成を行うこととなった。今回は、その動画コンテンツの作成協力者として事業に携わり、作成された動画コンテンツが学校現場の教員にどの程度活用されたのかについて報告することとする。

2 令和2年度武道等指導充実・資質向上支援事業について

武道等や課題がみられる領域の指導を担う教員の資質向上、指導の充実等を図るためのスポーツ庁の事業であり、今回の動画コンテンツの作成については、スポーツ庁が公募し、K大学が応募、委託され、この事業の中の一つとして実施されたものである。資料作成委員会は、委員長をはじめとする作成委員17名と映像制作業者、事務局で構成され、小学校体育科における、運動領域(体づくり運動系、器械運動系、陸上運動系、水泳運動系、ボール運動系、表現運動系)と保健領域について、動画コンテンツの内容が検討された。筆者は、体づくり運動系を担当し、同担当の指導主事とともに内容の構想・検討・作成にあたった。

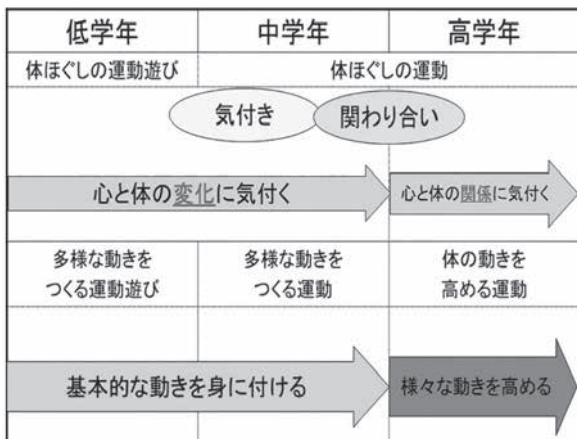


図2 小学校の体づくり運動系

小学校学習指導要領解説体育編に示されている、体づくり運動系の内容構成については、おおよそ図2のようにまとめることができる。

3 指導資料(動画コンテンツ)の作成について

作成に当たっては、事務局より次の方針が示された。

- (1) 研究・開発にあたっては、学校現場で日常的に行われている事例や、その他団体等が示しているガイドライン等も参考にしながら、学習指導要領の内容を効果的に指導できることや、どの学校でも実施可能な方法を前提として検討を進める。
- (2) 各委員が研究・開発した学習活動例については、資料作成委員会にてその妥当性・有効性について協議する。この協議では、領域間で共有できる点やその領域として特に配慮が必要な点などを整理し、本動画資料が全国の学校現場で有効活用されるよう、内容の精査を行うこととする。
- (3) 資料作成委員会で確認した学習活動例をとりまとめて動画資料を作成する。各学校で教員が活用することを想定し、内容理解がしやすいよう配慮して編集作業を進めることとする。

これらを踏まえ、以下の方向性で教材内容を検討し、動画コンテンツの作成にあたった。

- ① 小学校学習指導要領解説体育編の例示に準拠すること。
- ② コロナウイルス感染対策の観点から、相手と近接する際に、一定の間隔や距離をとりやすくするため、用具を介して行う運動教材や、目印を示した場の設定とすること。
- ③ 安全に行える運動教材であり、児童の発達の段階を踏まえること。
- ④ 学校体育や日常生活の中で使用されている一般的な用具を用いること。

4 動画撮影について

2020年12月9日(日)に、筑波大学中央体育館において実施した。小学生となって実際に運動教材を行うモデルは、教員志望の大学院生に協力を依頼し、希望者を採用した(体育学学位プログラム7名、教育学学位プログラム6名)。他に、研究生(現職教員2名)に協力を得、計15名のモデルで撮影を行った。モデルの学生及び現職教員には、肖像権や二次使用等について記載された承諾書に必要事項を記入してもらい、事務局に提出した。また、撮影に当たっては、撮影に関わる全ての参加者の名簿を本学体育センターに提出するとともに、撮影当日は検温並びに健康観察、手指消毒等の感染防止対策を

徹底した。

5 教師用指導資料（動画コンテンツ）について

作成された動画は、「コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料」としてスポーツ庁のホームページに掲載されている（https://www.mext.go.jp/sports/bmenu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm）。小学校は、総論3本、体づくり運動系10本、器械運動系4本、陸上運動系5本、水泳運動系5本、ボール運動系19本、表現運動系6本、保健2本の計54本が作成され掲載されている。

動画は、「題名→感染症対策における配慮事項→単元計画の例→活動例」の順番で構成されており、令和2年10月段階の知見に基づき作成した旨が付されている。

筆者が協力者として関わった体づくり運動系は、体ほぐしの運動遊び（低学年）1本、体ほぐしの運動（中学年・高学年）2本、多様な動きをつくる運動遊び（低学年）2本、多様な動きをつくる運動（中学年）3本、体の動きを高める運動（高学年）2本であった。ここでは、表1に示す「多様な動きをつくる運動（中学年）」の単元計画の例に基づく動画コンテンツ作成について報告する。

図3は、ロープを使って、友達を引っ張る運動教材である。これは、小学校学習指導要領解説体

育編の第3学年及び第4学年、A体づくり運動、イ多様な動きをつくる運動、(エ)力試しの運動の「人や物を押す、引く、運ぶ、支える、ぶら下がるなどの動きや、力比べをするなどの動きで構成される運動の行い方を知り、力を出し切ったり力の入れ方を加減したりする動きができるようにする。」に該当する内容である。人を押す、引くに関しては、以下の内容が例示として示されている。「人を押す、引く動きや力比べをするなどの動きで構成される運動『押し合いずもうで、重心を低くして相手を押したり、相手から押されないように踏ん張ったりすること。』『重心を低くして相手を引っ張ること。』『人数を変えて綱引きをすること。』『人を運ぶ、支えるなどの動きで構成される運動、『友達をおんぶし、力の入れ方を加減しながら安定して運ぶこと。』『手押し車などにより、両腕で体重を支えながら移動したり、相手の様子を見ながら支えたりすること。』」

これらの、人と接触しながら力試しを行う運動については、感染症対策として、用具を介して一定の距離をとりながらも、重心を低くしたり、力の入れ方を加減したりといったねらいを含みもつ運動として、ロープで人を引く運動を考案した。学校現場では日常的に使用している雑巾を利用し、その上に腰かけた仲間を様々な方向に引いて運ぶ運動である。

表1 中学年 多様な動きをつくる運動 単元計画の例

	1	2	3	4	5	6	7
0	挨拶、健康観察、準備運動						
	オリエンテーション	体を移動する運動	体のバランスをとる運動	基本的な動きを 組み合わせる運動			
	1 単元の流れの確認	・体じゃんけんをして	・ロープを使って、	・新聞紙の棒を立て、			
	2 学習の約束	勝った人が移動する	バランスをとって立つ、座る	人が入れ替わって			
	3 場の準備や片付け	・グループの先頭の人の動きを	・タオルを使って、	倒れないうちにつかむ			
	4 試しの運動	真似しながら移動する	バランスくずしをする	・フープを転がし、			
		力試しの運動	・グループで円になり、	その中をくぐったり			
		・跳び箱、マットを使った押し	バランスをくずし合うゲー	跳び越えたりする			
		合いずもうをする	ムをする	・長なわを跳びながら			
		・ロープを使って、	用具を操作する運動	ボールを捕ったり、			
		友達を引っ張る	・新聞紙の輪を使って	なげたり、ついたりする			
			投げたり捕ったりする				
			・フープを転がしたり、				
			その中に足を入れたりする				
45	振り返り、まとめ						
	整理運動、健康観察、挨拶						



図3 ロープで人を引く運動

図4は、タオルを使って、バランス崩しをする運動教材である。A体づくり運動、イ多様な動きをつくる運動、(ア)体のバランスをとる運動の「姿勢や方向、人数を変えて、回る、寝転ぶ、起きる、座る、立つ、渡るなどの動きやバランスを保つ動きで構成される運動を通して、体のバランスをとる動きを身に付けることができるようにする。」に該当する内容である。例示には、「体のバランスを保つ動きで構成される運動、『ケンケンしながら相手のバランスを崩したり、バランスを崩されないようにしたりすること。』と示されている。相手のバランスを崩そうとする際には身体接触を伴うため、感染症対策として、タオルといった身近な用具を介して一定の距離をとりながらも、バランスを保つというねらいを含みもつ運動として考案した。



図4 タオルを使ってバランスくずし

図5は、グループで円になり、バランスを崩し合うゲームをする運動教材である。図4と同様に、「体のバランスを保つ動きで構成される運動」の一つであるが、例示には「グループで円陣になり、バランスを崩し合うゲームを行い、友達のバランスを崩しながら両足で踏ん張ってバランスを保持すること。」と示されている。相手のバランスを崩す際には、手をつなぐ身体接触が生じてしまうため、円陣を組む隣の人との間に輪ボタンを入れ、互いにそ

れを握ることで力が伝わるような運動を考案した。輪ボタンは、低学年の「走・跳の運動遊び」の「かけっこ・リレー」で、一般的に活用されている教具であり、ボタンの握りや受け渡しがしやすいようにリング状にしたものである。



図5 輪ボタンを使ってバランスくずし

この他にも、運動の場における間隔のとり方(図6)やICT機器を使用する際の間隔のとり方(図7)、使用した用具の片付けの仕方(図8)等についても一定の間隔をとるよう解説を加えた。



図6 運動の場における間隔のとり方



図7 ICTを使用する際の間隔のとり方



図8 使用した用具の片付けの仕方

6 指導資料の活用について

これらの動画コンテンツは、2021年4月には、スポーツ庁のホームページ上で公開されていたが、それらが、学校現場にどの程度周知され、どの程度活用されているのかその状況について、簡単なアンケート調査を行った。

1) 調査期間

2021年7月～8月

2) 調査対象

- ① F県主催の「短期講習（体づくり運動）」の参加者
- ② I県主催の体育学習アドバイザー派遣事業（体づくり運動）の参加者
- ③ I県主催の小学校体育主任研修会の参加者

3) 調査方法

動画コンテンツのURLについてはQRコードを作成し、また、質問項目についてもGoogleフォームを利用しQRコードを作成し、参加者に知らせた。あくまで任意の回答とし、氏名、学校名等の個人が特定される情報は収集せず、以下の点について質問項目を作成した。

4) 質問項目

質問1：この動画コンテンツの存在をどのように知ったかを確認するため、「この研修に参加して初めて知った」「勤務校ですすでに周知されて知っていた」「他の学校の先生に教えてもらって知っていた」「別の研修会に参加して教えてもらったので知っていた」「自分自身で情報を集める中で見つけて知っていた」から選択してもらった。

質問2：動画コンテンツを視聴して「大変参考になった」「やや参考になった」「あまり参考にならなかった」「まったく参考にならなかった」のいずれかを選択してもらい、その理由について自由記述を求めた。

5) 結果

各研修会の参加者に呼び掛けたところ、質問1に対して、304名の回答が得られた。図10に示すように、約80%の参加者が、今回参加した研修会で初めて知ったと回答していた。

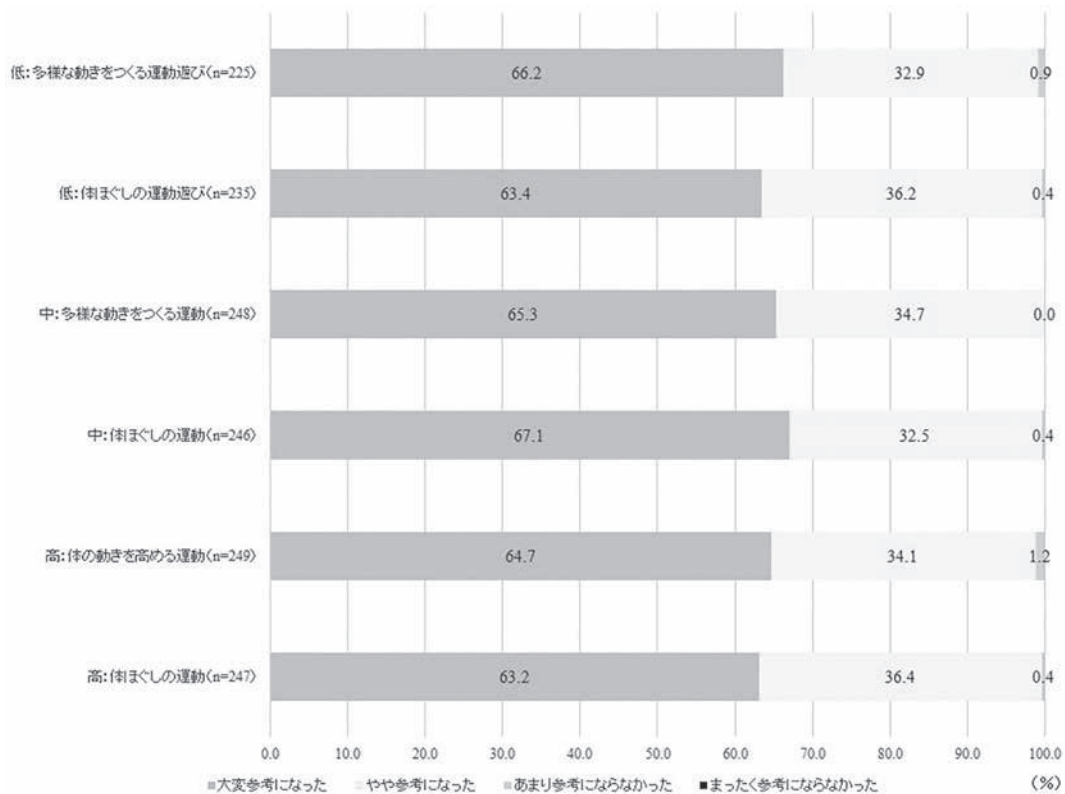


図9 教員の活用に関する意識

質問2に対しては、図9に示すとおりである。すべての内容について、60%以上の教員が「大変参考になった」と回答しており、「やや参考になった」も含めると90%以上の教員が参考になったと回答していた。

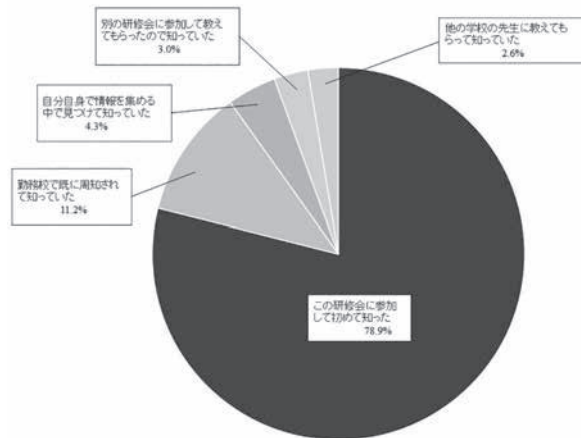


図10 動画コンテンツを知ったきっかけ

その主な理由については、表2に示すとおりである。

「あまり参考にならなかった」という回答も少数見られたが、その主な理由は「自分がその担当学年ではないから」といったものであった。

7 まとめ

今回の指導資料作成においては、感染予防に配慮しながらも、学習指導要領解説に示されている内容に即した運動例を提示することを目的とした。学校現場の教員の活用に対する意識については、参考になったという回答がほとんどを占め、コロナ禍において学校現場の体育授業に貢献できる、具体的な運動例を作成し提供できたことが窺える。

しかしながら、活用状況は、今回の研修会に参加して初めて動画コンテンツの存在を知った教員が、全体の約80%にのぼった。研修会は7月14日以降8月にかけての開催であったことから、スポーツ庁のホームページに指導資料が掲載されてから、学校現場の教員に届くまで、おおよそ4か月のタイムラ

表2 「やや参考になった」「大変参考になった」と回答した主な理由（抜粋）

- ・動画がわかりやすかった。
- ・身近な道具を使って感染症対策できるから。
- ・単元計画があるので、流れの中での活動がよく理解できた。
- ・用具もすぐに準備できそうなものがあったから。
- ・身体活動が多様で楽しい。
- ・今担当している学年だから。
- ・実践したい多様な動きがあった。
- ・自分自身がどのような活動を取り入れたら良いのか分からず、調べていたため。
- ・系統性を意識した学習が大切であると分かったため。
- ・たくさんの身近な道具が参考になったため。
- ・使い捨てできる用具を使っていて参考になった。
- ・スピードや動きの大きさ、シチュエーションの変化によって、運動を楽しみながらメリハリをつけて導入する方法をたくさん教えていただけたため。
- ・コロナ禍で、子どもたちの体力低下が懸念されているが、基本的な体の動きの習得という面で大変参考になった。
- ・様々な動きの基本から応用に移る様子がわかりやすかった。
- ・運動の強度も低学年より高くなり内容のレパートリーが増えたから。
- ・新しい運動の方法を知ることができた。
- ・実践できそうな取り組みで、参考にしたい。
- ・様々な動きがある中でどのようなことをねらいに児童に指導したらいいのか具体的に示されていたため。
- ・即、授業で実践できる内容であった。

グがみられる。また、研修会に参加しなければ、多くの教員がこういった指導資料に気付かず、体育授業を行うことになっていたことにもなる。これについては、コロナ禍の影響で、指導主事や教員を対象とした研修の通常開催が困難だったことにより、伝達がスムーズにいかなかったことが原因の一つとして推察される。今後は、今回のような事態に備えて、作成された指導資料が、学校現場の教員までよりスムーズに周知できるような方法やシステムの構築が求められると考える。

8 謝辞

今回、このような事業に携わる貴重な機会を頂戴しました資料作成委員会委員長をはじめ、事務局の

皆様方に深く感謝申し上げます。また、内容について協議・検討・編集いただきましたスポーツ庁教科調査官をはじめとする関係者の皆様、映像編集会社の皆様、作成協力者の皆様、撮影に協力してくださった大学院生の皆様に深く御礼申し上げます。

9 参考文献

- 1) 文部科学省（2017）：小学校学習指導要領解説 体育編。
- 2) 文部科学省（2013）：学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」授業の考え方と進め方（改訂版）。
- 3) 文部科学省（2009）：多様な動きをつくる運動（遊び）パンフレット。